

千葉大学医学部附属病院と市立青葉病院の医療連携協定 締結式



千葉市
CHIBA CITY



CHIBA
UNIVERSITY

千葉大学医学部附属病院と市立青葉病院の医療連携協定

令和7年5月8日
千葉大学医学部附属病院
千 葉 市

協定の意義

本協定は、高度先進医療を担う千葉大学医学部附属病院と「地域医療支援病院」として地域医療や救急医療を支える市立青葉病院という機能の異なる医療機関が互いに近接している利点を活かし、さらなる医療連携を強めることにより、限られた医療資源を有効に活用し、地域医療の充実・強化を図ることを目的として締結する。



CHIBA UNIVERSITY

(千葉大学医学部附属病院)

【課題】

大学病院に搬送される救急患者の処置後の入院・転院先の確保に苦慮



【解決の方向性】

処置後の転院先をスムーズに確保し、救急患者の対応に注力する

×



千葉市

(青葉病院)

【課題】

救急医不足により、初期処置を必要とする救急患者の受け入れが制限される

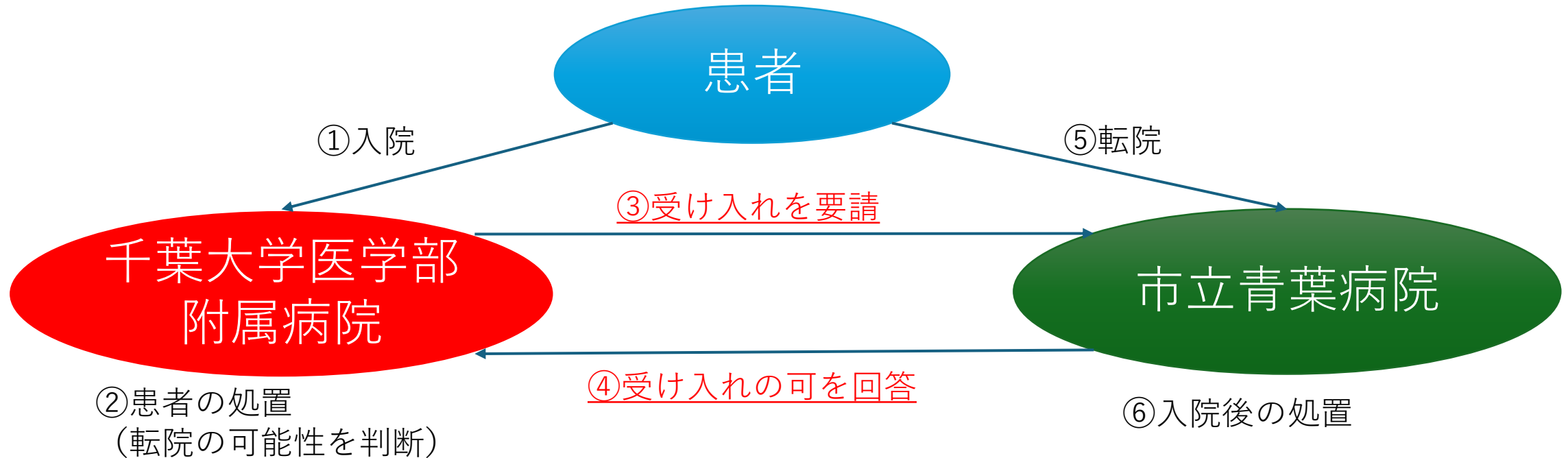


【解決の方向性】

初期処置後の救急転院を受け入れ、継続入院治療を提供する

連携内容

千葉大学医学部附属病院から市立青葉病院への患者転院を、診療科の枠組みを超えたものへ拡大させる



本協定により、③④について、診療科ごとの医師の関係をベースとした連携の強化に加え、救急分野で、

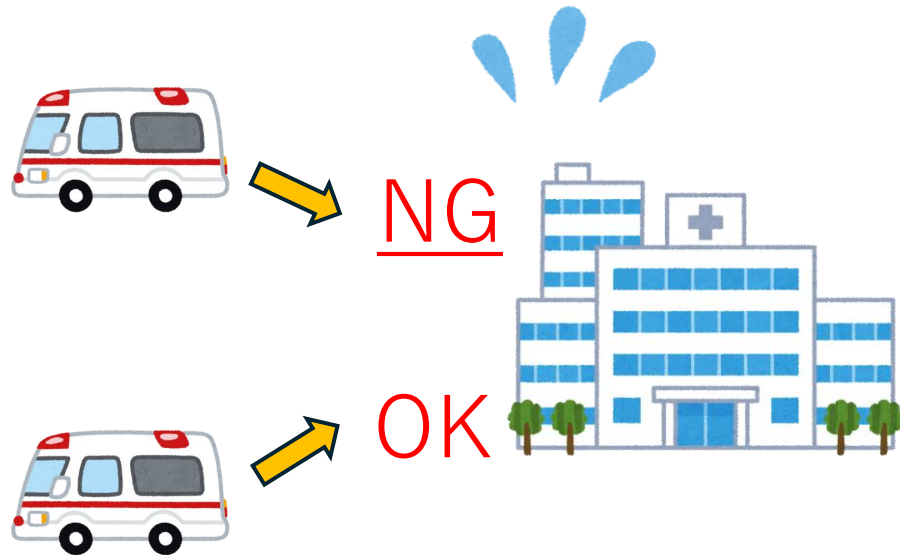
法人用のコミュニケーションツールを活用し、「ドクター to ドクター」の連携による意思決定時間の短縮やスムーズな転院調整の推進を実現

連携による効果①【千葉大学医学部附属病院】

「最後の砦」である三次救急の病床を確保できる！

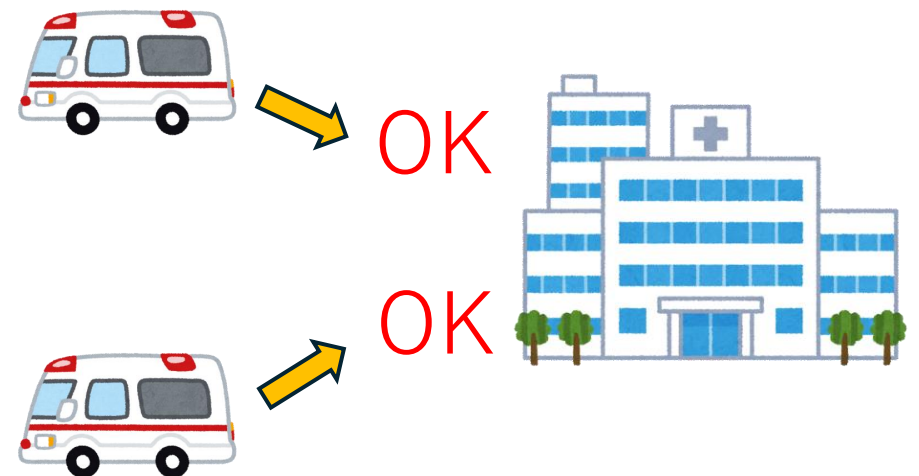
Before

三次救急を担う千葉大学医学部附属病院の病床が一杯になると、患者の受け入れを断らざるをえない事態が生じる



After

転院をスムーズに行うことで、千葉大学医学部附属病院の病床や医療資源をより多くの三次救急患者に充てることが可能



連携による効果②【市立青葉病院】

救急分野でも医師と医師が直接やりとりに変更することで転院調整が迅速化！

Before

転院調整に多くの手間と時間がかかっていた

大学
救急

転院先が対応してくれない
転院を断られる



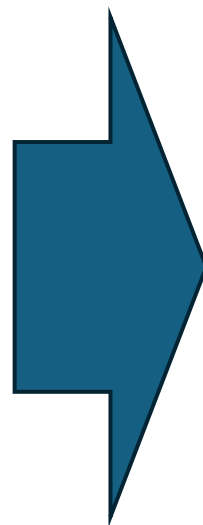
青葉
事務・
看護

担当する医師への相談が必要



青葉
医師

当院で対応が困難な病態変化に懸念



After

医師間の連携でスムーズな転院調整を可能に

大学救急医



医療連携協定

スピード：法人用コミュニケーション
ツールによる情報連携
ルール化：転院に係る運用のルール化
効果測定：転院件数の把握

青葉医師

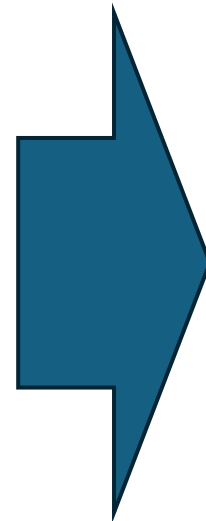
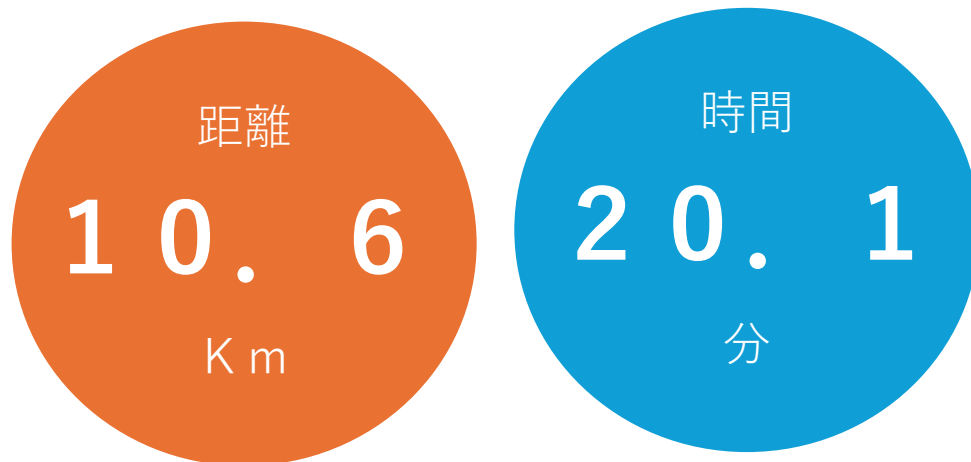
連携による効果③【患者のメリット1】

青葉病院は、千葉大学医学部附属病院の近くに立地（500m）
しているので、搬送時間が大幅に短縮！（20分→3分）



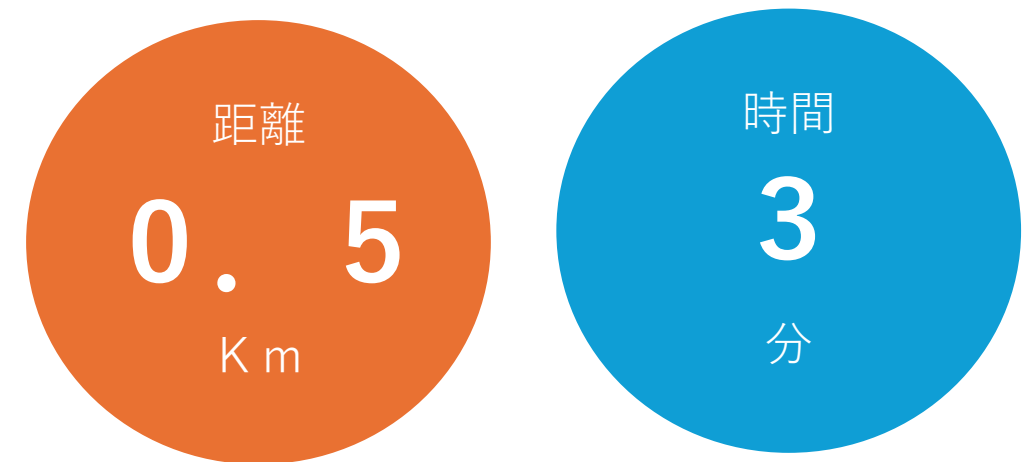
Before

○千葉大学医学部附属病院から市内の
救急病院までの距離と車での移動時間
【平均で10.6 km / 20.1分】



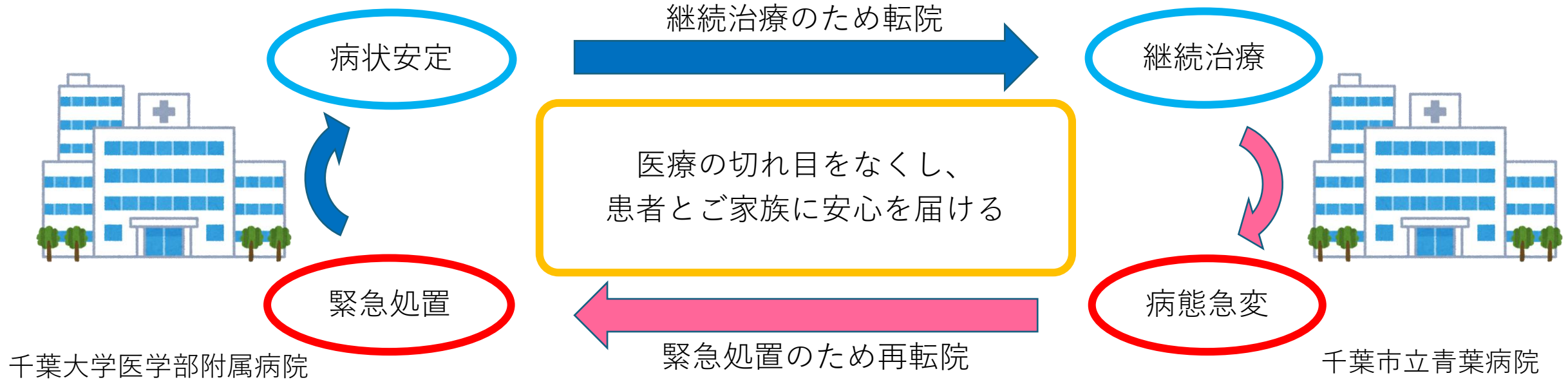
After

○千葉大学医学部附属病院から青葉病院
までの距離と車の移動時間
【0.5 km / 3分】



連携による効果③【患者のメリット2】

急変時も安心な再入院の迅速対応体制の整備



- 医療情報の即時共有、引継ぎミスの防止
- 搬送時間の短縮で、治療開始までの時間が短縮

検証及び連携の推進

連携の実施状況について定期的に検証するとともに、情報共有の促進、課題解決に努めるなど、連携の効果的かつ効率的な推進に必要な措置を講じます。

検証結果及び患者の需要動向等を踏まえながら、千葉大学医学部附属病院並びに市の運営する青葉病院及び海浜病院との機能分担、医療連携のあり方などについて、情報交換を進めます。

千葉大学医学部附属病院と市立青葉病院の医療連携協定 締結式



千葉市
CHIBA CITY



CHIBA
UNIVERSITY

千葉大学医学部附属病院と市立青葉病院の医療連携協定 締結式



千葉市
CHIBA CITY



CHIBA
UNIVERSITY